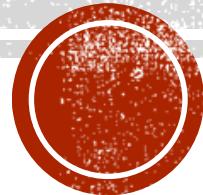


# 休校中の 漢字学習の進め方

～「意味をもつ文字」を使いこなして、  
考えや気持ちを伝えあうために～



# なぜ漢字学習は大切なのか

「なぜ、漢字学習は大切なのか。」または、「なぜ、漢字を学習しなければならないのか。」皆さん、この問いに答えられますか。少し考えてみましょう。

【自分の考え】

どうですか？

漢字を書けるようになることにどんな意味があるのか、自分なりの答えは出ましたか。

「たくさんの漢字を使いこなせている自分の生活」と、「漢字を使えない自分の生活」を想像してみてください。

# 漢字ドリル音読の進め方

- ※漢字学習では、まず読めることが大事です。読めない字は書けないし、書けたとしても使えませんよね。
- ※読み終えるまでの目標時間を決めます。
- ※読む箇所、方法は以下の通りです。

## ①漢字の読み方(音読み・訓読み)

②熟語  
③例文

を、それぞれ、一冊丸ごと最初から最後まで通して音読みします。ページをめぐるのも素早く!

### 【①の音読み】

①の読み方を素早く、しつかりと声を出して音読みする。一回目のタイムをもとに目標タイムを設定しましょう。

### 【②の音読み】

②の熟語の部分を音読みする。  
一回目のタイムをもとに目標タイムを設定しましょう。

### 【③の音読み】

③例文の部分を音読みする。  
一回目のタイムをもとに目標タイムを設定しましょう。

# 漢字ドリル学習の進め方

※漢字学習は、原則として自分で進めます。やり方を理解して、自分のペース（自分が決めた、自分に合ったペース）で計画的に進める力をつけることも目的の一つだからです。

※各クラスで進めている方法で構いませんが、以下の手順を参考にして、3学期のドリルはすべて必ず終えましょう。

①音読3回。（読み方、文例、熟語）

②指なぞり3回。（書き順の声を出しながら、大きな漢字を3回指でなぞる。）

③書き順練習指なぞり3回。（1画ずつ、1画田にもどりながら指なぞりをする。）

「1・1、2・1、2、3・1、2、3、4…」

④空書き3回。（書き順の声を出しながら、3回空書きする。）

⑤鉛筆なぞり。（1ミリもはみ出さないように鉛筆でなぞる。）

⑥鉛筆書き。（ドリルのマスすべてを、丁寧につめる。）

# 漢字チェックの進め方

※学習した漢字が書けるようになつたかは、しっかりとチェックしないと確かめられません。書けるようになつたつもりをなくしましょう。

※何度も自分でチェックして、思い出すことで確実に覚えることができるのです。

※チェックして、忘れていた漢字は、練習します。

※方法は以下の通りです。厳しく行うことが大切です。

## ①ノートなどで漢字ドリルの読み以外を隠して、空書きできるかチェック。



## ②書けなかつた漢字は、上に✓を入れる。

一冊丸ごとチェックする。次回のチェックで書けたら✓は消す。

## ③書けなかつた漢字を漢字練習ノートに書き出しておく。

4マスを使って大きく書く。

必ずその場で書き出す」と!

# 「漢字練習」の進め方

※書けない漢字を練習するのが「漢字練習」です。

※全てかけるようになつたら、漢字を使いこなせるようになるための「漢字活用練習」に進みます。

※「漢字練習」は、✓がついた漢字について、ノートに

次のように取り組みます。

①4マス使って、✓がついた漢字を書き出しておき、横に読みを書く。

②書き順を声に出して言いながら、ゆっくり丁寧に右下に書く。

③その左に、ドリルに載っている熟語を一つ、書く。

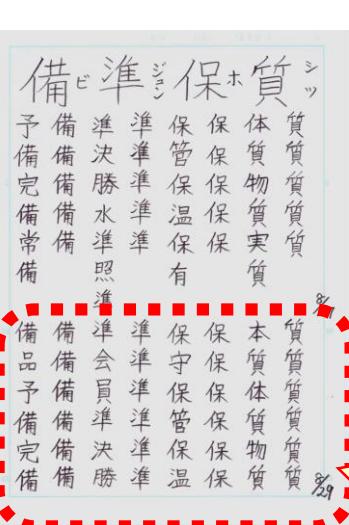
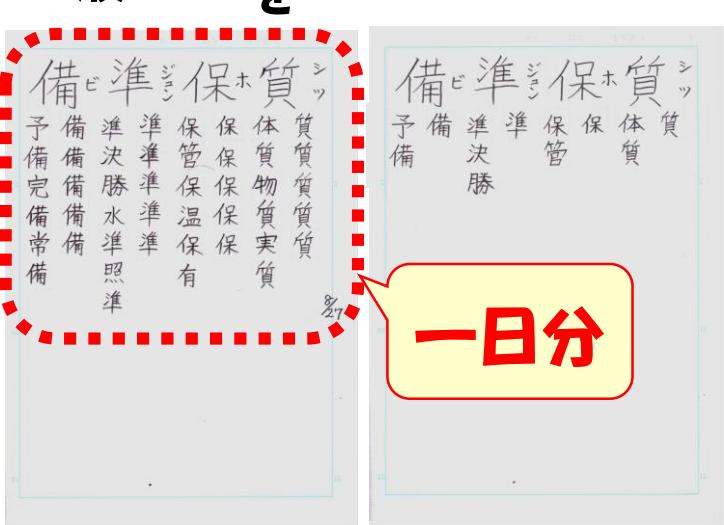
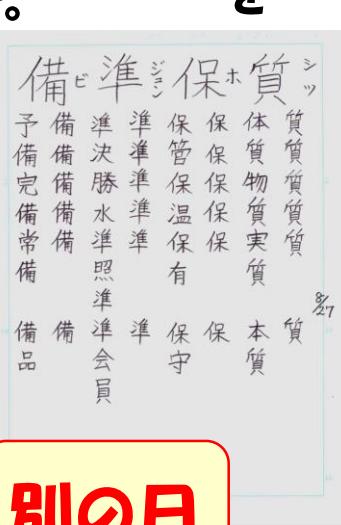
④次の漢字に移り、同じように書き順を声に出して言いながら、ゆっくり丁寧に右下に書く。

⑤その左に、ドリルに載っている熟語を一つ書く。それを繰り返し、5回ずつ練習したら、日付けを書き終了。

⑥何日か空けて、同じ手順で練習する。

一日分

別の日



# 「漢字活用練習」の進め方

※学習した漢字が書けるようになつたら、その漢字の熟語などをたくさん知り、使いこなせるようにしましょう。

そのための練習が「漢字活用練習」です。  
※辞書などを使って、学習した漢字を使った熟語をたくましく調べる言葉の「金玉詰のノモン」です。

※ ✓のついた漢字がほとんどなくなつたら取り組みます。  
※ 手順は以下の通りです。

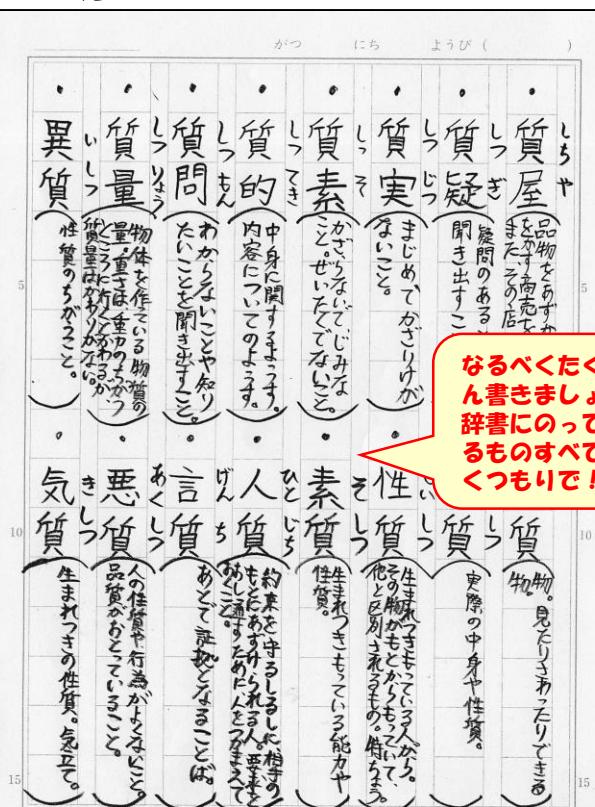
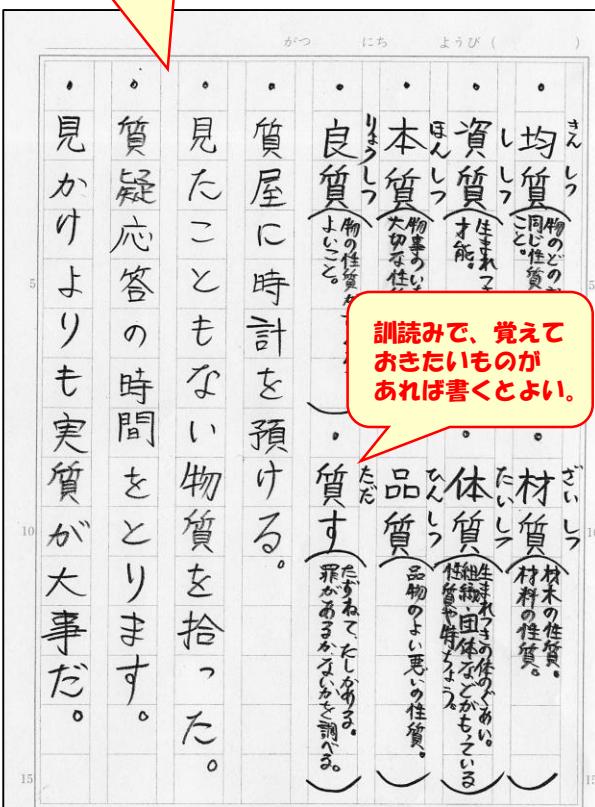
## ①活用練習する漢字を決める。

②その漢字を使った熟語や使い方を調べ、ノートにたくさん書き出す。

③その熟語の意味が分からぬ場合、意味を調べ、その熟語の下に書く。

④調べた熟語を使って  
例文を書く。

調べた熟語から、自分で選んで分を作りましょう。よく使いそう、知らなかったなど、自分なりの観点で。



調べた熟語から、自分で選んで分を作りましょう。よく使いそう、知らなかったなど、自分なりの観点で。

訓読みで、覚えて  
おきたいものが  
あれば書くとよい。

なるべくたくさん書きましょう。  
辞書にのっているものすべて書くつもりで！